

希望持つと何が変わる？

「希望」って何だろう。暮らしの先行きが見えにくい時代に、希望を持つことは、生活する上でどんな意味があるのだろうか。個人が希望を持つことは、社会にどんな影響を与えるのか。東大社会科学研究所（東京）が昨年度、希望と社会のかかわりを分析する「希望学」プロジェクトを立ち上げ、新しいタイプの研究を進めている。プロジェクトの責任者を務める同研究所の玄田有史助教授に、目指すものを聞いた。

（村田泉）

「希望学」プロジェクト責任者

玄田有史助教授に聞く

最近、「希望」という言葉を、つた一九九八年くらいから、急々目につきます。インターネットに増え始めていました。「希望」で「希望」という文字をタイプが語られるのは、人々の希望がらに含む本の出版数を調べてみ、失われていることの裏返しかもしれません。日本経済が金融不況に陥りません。



「希望は実現させることだけではなく、挫折し、失敗しながら軌道修正していくことが大事」と語る玄田有史助教授

ニートは意欲や能力でなく希望を失っている

二〇〇五年頃から三カ年計画で始まった「希望学プロジェクト」では、インタビューやアンケートを通じて、経済、政治、歴史、さまざまな視点から、人はずのよう希望を持つ、そして失うのか、希望は社会のどのような関連性があるのか分析します。今年は秋に岩手県釜石市で大規模調査を行うほか、今後は希望に関する国際比較もやる予定です。

僕はニートの問題をやってきたのですが、若者と話して感じたのは、彼らに希望は、働く意欲や能力でなく「希望」なところまで。やりたいことが見つからない、何をしたらいいかわからない、というのは希望がないからなのです。

経済学では人は何かを消費したい、何かを選択したいという目的、希望があって、それを実現する前提に合理的に行動するとする前提があります。しかし今の若者の問題などを考えると、希望があるという前提自体が崩れているような気がします。

私たちが、二世代・四十年代を対象に行ったアンケートでは、「子供のころにならたい職業があったが、希望がかなわず、断念や挫折を経験して希望を軌道修正した人」が、最もやりがいのある仕事に就いていることが目に見えてきました。

希望とは「期待しきれない望み」と書きます。多くの希望は失敗します。しかし、最初を持った希望を実現することだけに意欲があるわけではない。挫折を乗り越えながら、自分が本当にやれること、やるべきことを見つめなおし、軌道修正の行動をすることで、新たな希望やより高い充足を得られることもある。そのような現実に向き合って生きることが大切なんです。その意味で希望学は「挫折学」ともいえます。

ニートやフリーターの増加が深刻な社会問題として懸念されています。しかし、単に「新しい職業を見つけてみよう」と述べても、若者の心には響きません。

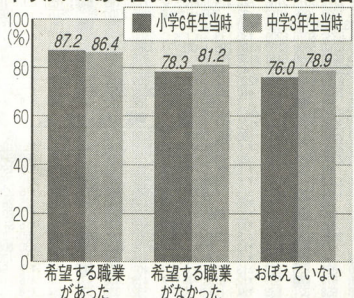
私たちは「こうすれば希望が見つかる」などということを示すものはありません。しかし、若者が希望を見つけにくい時代だからこそ、データなどの事実による裏づけをもとに「希望は修正していったらいい」「挫折は悪いことではない」と、伝えていくことはできるのではないかと。

◆ 今後は、問題意識をさらに掘り下げ、若者と限らず、希望を持ってないという人たちがなぜ、希望がもたないのか、どうすれば希望がもてるのかについても考えていきたいと思っています。

◆ げんた・ゆづじ 1964年生まれ。専攻は労働経済学。著書に「仕事のなかの曖昧な不安」「働く過剰」「ニート」など。

小中生時代の夢 仕事に影響

やりがいのある仕事に就いたことがある割合



※図はいずれも中公新書ラック「希望学」(玄田有史編著)より

東大社会科学研究所が二〇〇五年五月、希望学プロジェクトの一環として行った「職業の希望に関するアンケート」(二十代~四十年代対象、回答八百七十五人)では、小中学生のころ、なりたいたい職業の具体的なイメージを持っていった人や過去に挫折経験がある人ほど、やりがいのある仕事に就いている割合が高い、との傾向がみられた。

中学三年生当時になりた職業があった人のうち「やりがいのある仕事を経験したことがある」と回答した人は、86.4%で、当時

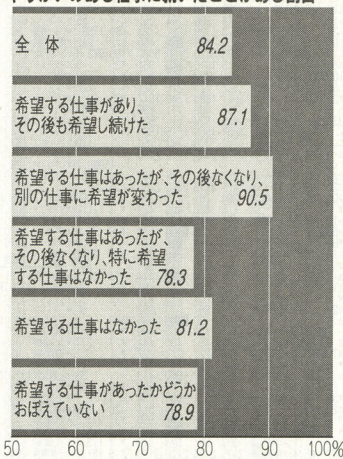
時希望がなかった人の81.2%を上回った。中学三年生当時の職業希望とその後

の進捗をば、やりがいのある仕事に一番多く就いているのは「当時希望する仕事はあったが、その後ななり、別の仕事に希望が変わった」人々で、「希望の修正」が仕事のやりがいの発見につながっていることがうかがえた。

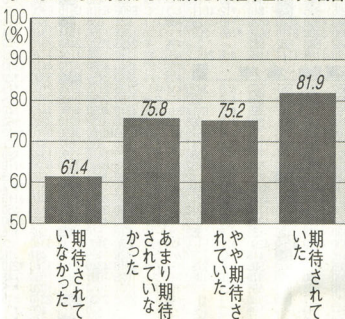
一方、調査では、友だちが多くいる人、子供ころに家族から期待された経験を持っている人ほど、未来に希望を持っている、という傾向もみられた。同研究所は「子供のころの家族からの期待は、チャレンジ精

20~40代に 進路修正、挫折も大事

中学3年生のときの職業希望の変遷状況別に見たやりがいのある仕事に就いたことがある割合



子どものころの家族からの期待と、現在希望がある割合



神や好奇心、独立心を持つための資糧をつ

く、「挫折も含めて希望を修正する上で、友人など、他者とのかわりが重要になってくる」など分析。中でも、たまにしか会わない人など、「ワイークライズ(弱いつながら)」と呼ばれる、自分と違う世界に生きる友人とのつきあいが、有意義な情報を得られることも多いと指摘している。

家庭の経済環境と希望の有無との関連はみられなかった。玄田助教は「お金持だから希望が持たやすく、貧乏だから持たにくい、などそんな単純なものではないことがわかった」と話す。